

ともに成長を祝い
新温泉町の
これからに想いを馳せる

新温泉町 町制20周年

SHIN-ONSEN CHO
20th Anniversary



この地で築き
受け継いできた「心」
持続可能な誇りある町へ

新温泉町は、豊かな自然と町民の力に支えられ、
確かな歩みを重ねてきました。

人に例えれば、20年は基礎を築き、明るい未来へ踏み出す時期です。

これから皆さんと共に歩む未来は、
その礎をもとに自然環境を活かした、
持続可能で安心できるまちづくりを目指します。

未来には新たな可能性が広がっており、
その一端を担うのは、今を生きる私たち一人ひとりです。

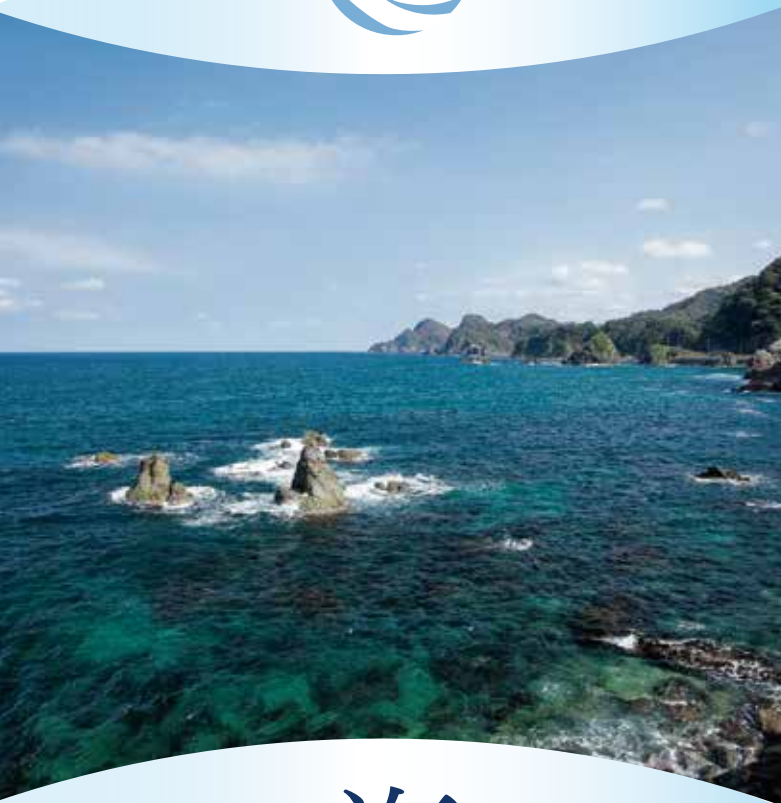
20周年の節目を、皆で共に喜び、明るい未来へ踏み出しましょう。



ともに歩んだ20年
未来へつなごう



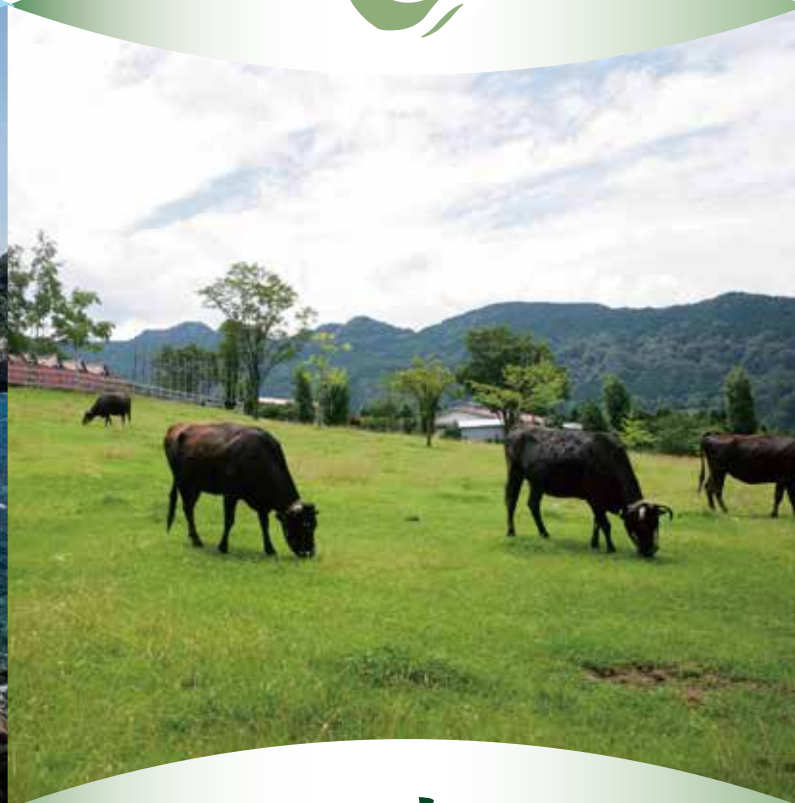
人と自然の営み



海

海がつなぐ
ひと・もの・心

波の音と潮風に包まれ、山陰海岸ジオパークに代表される地球の雄大さを感じる景観が広がります。「松葉ガニ」や「浜坂地えび」などの新鮮な魚介類が港町の暮らしを彩ります。海の幸を味わう瞬間は、地元の漁師が鮮度と品質にとことんこだわった意気込みを感じることができます。



山

大地が語る
悠久の物語

海と空と山を一望できる上山高原、人を惹きつける滝の流れ。新温泉町の山は、山の恵みを届けるだけでなく、但馬牛を育む畜産地でもあります。春の新緑、夏の深緑、秋の紅葉、冬の雪景色と四季折々にその姿を変え、訪れる人に深い安らぎをもたらします。



生まれた4つの資源



温泉

湯けむりが
まちを包む

日本海に面した新温泉町は、豊かな自然と温泉に恵まれたまちです。町名のとおり、随所に湧き出る良質な湯が訪れる人々を癒します。中でも名高い「湯村温泉」は、およそ1200年の歴史を刻み、98度の高温源泉「荒湯」が湧き出し、温泉卵や山菜のあく抜きなどの湯がき文化が、昔ながらの情緒を伝えています。



文化

受け継がれる
先人達の物語

麒麟獅子舞、傘踊り、ざんざか踊りの勇壮な舞。そして、地域住民総出で縄をなう菖蒲綱。町の文化は、暮らしと共に息づき育まれてきました。祭りや伝統行事に触れるたび、町の記憶が人々に受け継がれ、未来へと紡がれていきます。そこには人々の誇りと絆があります。





目次	4～5
ごあいさつ／町制20周年を迎えて	
新温泉町長 西村 銀三	6
新温泉町議会議員 池田 宜広	7
[第1章] 新温泉町の誕生／はじまりの軌跡	8～9
[第2章] 新温泉町20年の歩み	
2005～2012	10～11
2013～2018	12～13
2019～2025	14～15
[第3章] 新温泉町の豊かな資源	
産業・海・ジオパーク	16～17
山・自然・畜産	18
温泉	19
文化・麒麟獅子舞・北前船	20～21
[第4章] この町を支える地域団体のご紹介	
新温泉町の地域の力	22～23
[第5章] 未来へつなぐ住民の声	24～29
新温泉町概要	30～31



美しい自然 豊かな資源 そして温かな人の力 未来へ輝く新温泉町



新温泉町長
西村 銀三

令和7年10月、新温泉町は浜坂町と温泉町の合併から20周年を迎えました。この節目を迎えるにあたり、これまで町を支え、育んでくださった町民の皆さまに、心より感謝申し上げます。

合併から20年のあゆみを振り返りますと、町の将来像である「海・山・温泉人が輝く 夢と温もりの郷」の実現に向け、私たちは地域の魅力を活かしながら、安心して暮らせるまちづくりに取り組んでまいりました。町民の皆さまの温かさと協力があったからこそ、今日の新温泉町があります。

この20年の間に、社会は大きく変化し、人口減少や少子高齢化といった課題にも直面しています。こうした変化の中で、私たちは未来に向けて、持続可能で活力あるまちを築いていく責任があります。

町内には、温泉をはじめとする素晴らしい自然環境や地域資源があふれています。これらを守り育てながら、次の世代へとつなげていくことも、私たちの大切な使命です。

これからも、町民の皆さまの笑顔があふれ、住んで良かったと誇れる町へと飛躍するため、皆さまと共に力を出し合い、よりよいまちづくりに全力で取り組んで参ります。

結びに、本記念誌の発刊にご尽力いただいた関係者の皆さまに深く感謝申し上げますとともに、新温泉町のさらなる発展と、町民の皆さまのご健勝とご多幸を心よりお祈り申し上げます。

ともに乗り越え 育んできた20年 安心と活力あふれる町を 次の世代へ



新温泉町議会議長
池田 宜広

新温泉町は平成17年10月に浜坂町、温泉町が合併し、今年で20年の節目を迎えました。

この間、平成、令和と時を重ね、激しく変動する社会情勢の中で、町民の皆さまが将来の限りない発展を夢見て心を一つに助け合い、幾多の試練を克服し、今日の誇れるわが町を築いてこられました。先人の懸命の努力と情熱によって、生活環境の向上や安全で安心な町づくりが大きく進展しましたことに、心から感謝を申し上げます。

新温泉町は「海・山・温泉」の素晴らしい自然と観光資源を多いに活用し、それらに係わる経済効果を最大限引き出すことを念頭に努力をいたしているところであります。

また、人権が尊重され誇りが持てる町づくりの実現に向けて人権教育、啓発活動の推進をしてまいりました。

現在、地方行政を取り巻く環境は年々厳しくなり、新温泉町もその例外ではないと考えております。進む人口の減少と少子高齢化、過疎化、財源となる税収の減少等、様々な問題にわが町も直面しております。

また、本格的な分権の時代を迎え、地方創生が推進される今、自分たちの地域の事は自分たちで考え判断し、その地域が持つ魅力を引き出すことで、将来へ向けた、地方自治体のあり方が強く求められてきております。

新温泉町議会といたしましても、町民一人ひとりが、明るくいいきと輝き、安心と活力のある新温泉町を創っていくため、議員全員が一つになり、全力で取り組んでいく所存でございます。



浜坂町

ここから始まる20年
新たに「新温泉町」へ



温泉町

2つの町が出会い
浜坂町と温泉町



新温泉町誕生の道のり ～平成の大合併とその意義～

新温泉町は、平成17年(2005年)10月1日、浜坂町と温泉町が合併して誕生しました。この合併は、全国的な市町村合併(平成の大合併)の流れの中で行われたもので、人口減少や財政の厳しさといった課題に対処し、より効率的で持続可能な地域行政を目指すという共通の目的のもと、両町が協議を重ねて実現したものです。

浜坂町は、日本海に面した港町として漁業や観光を基幹産業とし、温泉町はその名の通り、湯村温泉をはじめとする豊かな温泉資源と歴史文化を有する町でした。それぞれに異なる魅力と特徴を持つ両町が1つになり、新たなスタートを切りました。

異なる個性が結び合い、新たなまちへ

この20年間で、新温泉町は住民サービスの充実、インフラ整備、防災対策、観光振興、地域づくりなど、様々な分野で着実に発展を遂げてきました。一方で、人口減少や高齢化といった課題もあり、次の10年、20年に向けてさらなる挑戦が求められています。町制20周年という節目を迎え、あらためて合併の原点に立ち返り、地域の絆を深めながら、誰もが安心して暮らせる、活力と魅力あるまちづくりに取り組んでいくことが重要です。

合併から始まった新温泉町 ～紡ぐ町の歩み～

1. 行政サービスの安定と効率化

合併により役場機能や公共サービスが再編され、多様な住民ニーズに対応した行政運営が可能となりました。本庁舎と支所を中心に、効率的な事務運営ができるよう職員配置を進めてきました。



八田防災広場完成

2. 地域間の連携と一体感の醸成

浜坂町と温泉町の2町が一つとなったことで、「新温泉町」としての一体感が育まれ、町民同士の交流や相互理解が深まりました。



浜坂みなとほたるいか祭り

3. 観光資源のブランド力強化

湯村温泉、七釜温泉、浜坂温泉郷などの温泉資源や、但馬牛、松葉ガニ、ホタルイカなどの特産品を一体的にPRできるようになり、「新温泉町」としての認知度が向上しました。観光パンフレットやイベントもより魅力的になり、情報発信力が強化されています。



新温泉町観光パンフレット

4. 機能再編・防災体制の強化

それぞれの消防団が「新温泉町消防団」として再編され、令和7年現在、総勢588名の志ある団員によって地域の防災力が高められています。また、避難所の見直しや災害対応体制の整備も、合併に合わせて進められました。

5. 財政的安定と基盤整備

安定的な財政運営を維持するため、基金の確保や起債残高の減少に努めるとともに合併特例債を活用し、公共施設やインフラの整備を計画的に進めてきました。また、「公共施設等総合管理計画」に基づき、公共施設の最適な配置を図るなど、長期的な視点を持った持続可能なまちづくりが推進されています。



避難所や災害対応の見直し

新温泉町20年の歩み

2005 — 2012

2013 — 2018

2019 — 2025

新温泉町の出来事

2005 平成17年

- 10月1日
「新温泉町」発足



2006 平成18年

- 「平成18年豪雪」
新温泉町でも記録的大雪

- 「湯村橋」・
「夢千代橋」完成



- 「上山高原ふるさと館」
完成



- 新温泉町「恒久平和の町」
宣言

- 兵庫県で初めて外国人
漁業研修生受け入れ

2007 平成19年

- 温泉総合支所
新庁舎で業務開始



- 浜坂高校温泉校閉校
- カニソムリエ検定初開催
- 浜坂県民サンビーチ一帯が
「恋人の聖地」に決定

- 浜坂温泉
配湯25周年を記念
して源泉横に
石地藏を設置



2008 平成20年

- 湯村温泉観光交流センター
(薬師湯)オープン



- JR浜坂駅に鉄道グッズ館
「鉄子の部屋」と「足湯」が
オープン



- 浜坂・諸寄漁港関連
道路開通

- 浜坂多目的公園
グラウンドゴルフ場完成
- 町内全ての路線で
町民バスが運行開始

- 東浜居組道路開通
(七坂八峠の難所改良)



- 山陰海岸ジオパークが
日本ジオパークに認定

2009 平成21年

- 浜坂地域の幼稚園・保育園が
認定こども園に移行
浜坂認定こども園・
大庭認定こども園・
明星認定こども園となる

- 住民参画と協働の推進指針を
策定

- 湯村温泉ポケットパークが
完成

- マリンポーチを改修し
山陰海岸
ジオパーク館が開館



- 山陰海岸ジオパークが
世界ジオパーク国内候補地に
決定



- 「ハマダイコン」のキャラクター
「ハマちゃん」誕生

2010 平成22年

- 湯村温泉の
キャラクター
「湯〜たん」
誕生



- 温泉・春来・熊谷小学校を
統合し「温泉小学校」とする

- 兵庫・京都・鳥取の3府県で
ドクターヘリ運行開始

- 御火浦コミュニティセンターが
完成

- 主要地方道浜坂井土線
「栃谷バイパス」が完成

- 山陰海岸ジオパークが
世界ジオパークに認定



- 兵庫県と但馬3市2町が共同
で運営する消費生活相談窓口
「たじま消費者ホットライン」が
スタート

2011 平成23年

- 「没後百年 前田純孝追悼の
集い」開催

- 浜坂町漁業協同組合から
セコガニ500匹が寄贈され、
学校給食(中学校)で初めて
セコガニを提供



- 夢つばめ(町民バス)
車体を町章モチーフ
デザインに統一

- 公立豊岡病院のドクターカー
ドクターヘリとの
併用運行開始

- 宮城県の被災自治体に
職員派遣を開始

- 浜坂駅開業
100周年記念事業
(記念碑・鉄道遺産
ツアーなど)



2012 平成24年

- 町民バスラッピング開始

- 浜坂駅前に
まち歩き案内所
「松籟庵」(しょうらいあん)が
オープン



- 町遊覧船施設が完成

- 先人記念館「以命亭」
開館20周年

- 加藤文太郎記念図書館で
インターネットで本の
予約受付開始

- 携帯電話のメール機能を
利用して緊急情報等を
配信する
「しんおんせん防災ネット」が
スタート

- 「鳥取・因幡定住自立圏」の
協定締結

- 「町民憲章」「町の花・木・鳥」
「町民歌」を制定

世界・日本の出来事

- JR福知山線列車脱線事故
- プロ野球セ・パ交流戦スタート
- 日本国際博覧会(愛知万博)
開催
- コウノトリ試験放鳥開始
- 中部国際空港開港
- 北海道知床が
世界自然遺産登録

- ライブドア事件
- 冬季トリノオリンピック開催
- 神戸国際空港開港
- 第1回WBC(ワールドベースボー
ルクラシック)で日本優勝
- 天皇家秋篠宮妃紀子さま
ご出産
- のじぎく兵庫国体開幕

- 防衛省発足
- 能登半島沖・中越沖地震発生
- 43年ぶりに小6・中3を対象に
「全国学力テスト」を実施
- 郵政民営化「日本郵政グルー
プ」発足
- 第1回東京マラソン大会開催

- 後期高齢者医療制度開始
- 米のサブプライムローン問題
に端を発した経済不況が
世界に波及
- iPhoneが初めて日本で販売
- 日本人4人がノーベル賞を受賞
- 北京オリンピック開催
- 次期アメリカ大統領に
オバマ氏当選、史上初の
アフリカ系大統領誕生

- 新型インフルエンザ
A(H1N1)pdm09が全世界で
流行
- 第45回衆議院選挙で
民主党が圧勝し政権交代
- 裁判員制度がスタート
- 第2回WBCで日本代表が連覇
- 小惑星イトカワから「はやぶさ」
帰還

- 冬季バンクーバーオリンピック
開催
- 餘部鉄橋架け替え
- 関西広域連合設立
- 東京国際空港に4番目の
滑走路と新国際線ターミナルが
完成
- 鳥取豊岡宮津自動車道
(余部道路)が開通

- 「タイガーマスク運動」広がる
- 東北地方太平洋沖地震
(東日本大震災)(M9.0)
- テレビ放送が地デジに移行
- なでしこジャパンが
FIFA女子W杯優勝
- 九州新幹線(博多〜鹿児島中央)
開通
- 円高最高値(1ドル=75円32銭)
- 第1回神戸マラソン大会開催

- ロンドンオリンピック開催
- 東京スカイツリー開業
- 人工多能性幹細胞(iPS細胞)
の作製技術確立が認められ
山中伸弥博士
ノーベル生理学・医学賞受賞
- 北近畿豊岡自動車道
和田山八鹿道路開通
- 尖閣諸島・竹島問題で
近隣諸国と関係悪化

2005 — 2012

2013 — 2018

2019 — 2025

新温泉町の出来事

2013

平成25年

- 摂津市と災害時の相互応援協定締結
- 山陰海岸国立公園指定50周年



- 対田清水谷古墳群・小坂谷古墳群発掘調査
- 「但馬定住自立圏」の協定締結
- 夢が丘中学校とニュージーランドのマウント・ハット・カレッジが姉妹校提携
- 森林基幹道「池ノ尾線」開通
- 福島県の子どもたちを守り 健やかな成長を支援する「ふくしまキッズプログラム」を県内で初めて受け入れ



- 町道七坂八峠線に「七坂八峠展望台」を設置
- 八田防災広場完成

2014

平成26年

- 荒湯「ふれ愛の湯」リニューアルオープン



- 生きたダイオウイカを諸寄沖で捕獲
- 湯村温泉で温泉バイナリー発電施設の運転開始

- 加藤文太郎記念図書館開館20周年

- 浜坂ポケットパーク完成



- 味原小径完成
- 浅谷下山古墳群発掘調査
- 山陰海岸ジオパークがエリアを拡大し世界ジオパークに再認定
- 台風19号猛威 大雨と停電370件発生

2015

平成27年

- 「第10 回全国どぶろく研究大会」新温泉町で開催



- 薬師湯前に足湯オープン



- 香美町・岩美町・新温泉町の3町で図書館等の相互利用の開始

- 新温泉町合併10周年



2016

平成28年

- 味原川河川改修事業完了



- 上山高原ふるさと館開館10周年



- 但馬海岸遊覧船に新造船(グラスボート)が就航
- 「空き家バンク制度」町内空き家物件の情報公開開始
- 浜坂中学校で開校40周年記念式典を開催(1976年4月開校)



2017

平成29年

- 1市5町が連携して取り組む「麒麟のまち」圏域始動
- 第30回麒麟獅子マラソン大会開催



- 道の駅「山陰海岸ジオパーク 浜坂の郷」オープン



- 浜坂道路(浜坂IC～余部IC間) 開通



- 台風21号による大雨
- NHK新温泉ラジオ中継局が用土に開局

2018

平成30年

- 「北前船寄港地・船主集落・諸寄港」日本遺産認定



- 「麒麟のまち観光局」設立 新温泉町・香美町・鳥取県東部1市4 町の企業・団体が構成
- 因幡・但馬麒麟のまち連携中枢都市圏を形成
- 公共図書館の相互利用開始(新温泉町・八頭町・智頭町・若桜町・岩美町・鳥取市の図書館を相互利用可能に)

- 鉄子の部屋10周年



- 「二日市配水池」完成
- 但馬牛生産に取り組もうとする新規参入者のための実習施設「但馬牛研修センター」(湯)が完成
- 浜坂高等学校創立70周年

世界・日本の出来事

- 三浦雄一郎さん(80歳)エベレストの世界最高齢登頂記録を更新
- 2020年オリンピック・パラリンピックの開催地が東京に決定
- 富士山が世界文化遺産に登録
- 特別警報の運用開始

- 消費税率8%へ改定
- 富岡製糸場が世界文化遺産に登録
- 御嶽山噴火(長野・岐阜県境)
- 日本人研究者3人がノーベル物理学賞受賞
- 西アフリカでエボラ出血熱感染拡大
- 韓国で大型旅客船事故
- 冬季ソチオリンピック

- 北陸新幹線(金沢～長野)開通
- 国宝姫路城 平成の大修理完了
- 「明治日本の産業革命遺産」が世界文化遺産に登録
- 日本人研究者がノーベル生物学・医学賞・物理学賞受賞
- マイナンバー制度開始
- 米国・キューバが54年ぶりに国交回復
- COP21でパリ協定採択

- 北海道新幹線開業
- 熊本地震(M7.3)
- 公職選挙法改正18歳投票が開始
- リオデジャネイロオリンピック開催
- G7伊勢志摩サミット開催
- イチロー選手が日米通算4257安打・メジャー通算3000本安打達成
- 鳥取中部地震発生(M6.6)

- 稀勢の里関が横綱に昇進
- アメリカ大統領にトランプ氏が就任
- 将棋 藤井聡太四段が前人未到の29連勝
- 陸上 桐生祥秀選手100m走9秒98の快挙 日本人初の9秒台記録
- 豪華寝台列車「瑞風」運行開始

- 山陰・北陸で記録的大雪
- 冬季平昌オリンピック開催
- ヴィッセル神戸にアンドレス・イニエスタ選手が加入
- 西日本豪雨
- 築地83年の歴史に幕 豊洲へ移転
- 兵庫県政150周年
- 2025年大阪国際博覧会開催決定
- TTP(環太平洋パートナーシップ協定)発行

2005 — 2012

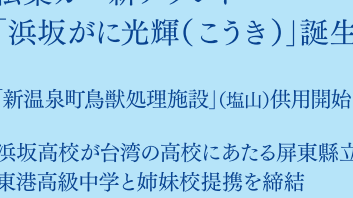
2013 — 2018

2019 — 2025

新温泉町の出来事

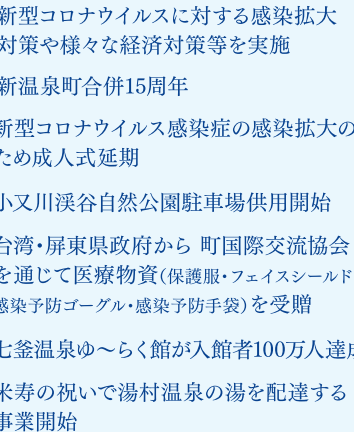
2019 平成31年・令和元年

- 兵庫県美方地域の「人と牛が共生する美方地域の伝統的但馬牛飼育システム」日本農業遺産認定
- 加藤文太郎記念図書館開館25周年
- 「日本海の風が生んだ絶景と秘境―幸せを呼ぶ霊獣・麒麟が舞う大地 因幡・但馬」日本遺産認定
- 湯村温泉「日本の名湯百選」に追加認定
- 松葉ガニ新ブランド「浜坂がに光輝(こうき)」誕生
- 「新温泉町鳥獣処理施設」(塩山)供用開始
- 浜坂高校が台湾の高校にあたる屏東縣立東港高級中学と姉妹校提携を締結



2020 令和2年

- 「因幡・但馬の麒麟獅子舞」国の重要無形民俗文化財に指定
- 「温泉総選挙」で湯村温泉が「環境大臣賞」を受賞
- 新型コロナウイルスに対する感染拡大対策や様々な経済対策等を実施
- 新温泉町合併15周年
- 新型コロナウイルス感染症の感染拡大のため成人式延期
- 小又川溪谷自然公園駐車場供用開始
- 台湾・屏東県政府から 町国際交流協会を通じて医療物資(保護服・フェイスシールド・感染予防ゴーグル・感染予防手袋)を受贈
- 七釜温泉ゆ〜らく館が入館者100万人達成
- 米寿の祝いで湯村温泉の湯を配達する事業開始



2021 令和3年

- 道の駅浜坂の郷に「麒麟獅子ポスト」設置
- 夢ホールリニューアルオープン
- 成人式をオンラインで開催
- 新型コロナウイルスワクチン集団接種開始
- 牧場公園の大型遊具完成
- 浜坂北小学校のプール完成。



2022 令和4年

- 「温泉総選挙」で湯村温泉・浜坂温泉・七釜温泉が「地方創生担当大臣賞」を受賞
- 麒麟獅子マラソン大会・浜坂ふるさと夏祭り花火大会・浜坂みなとカニ祭り 但馬「牛まつり」等のイベントが3年ぶりに開催
- 「孤高の登山家 加藤文太郎」偉人マンガ完成
- わんぱく相撲復活
- 鉄子の部屋(浜坂駅)閉館
- 上山高原が「未来に残したい草原の里100選」に認定
- 松葉ガニ新ブランド「浜坂がに煌星(きらぼし)」誕生



2023 令和5年

- 浜坂みなとほたるいか祭り・荒湯天狗まつり・湯村の火祭りが4年ぶりに開催
- 町文化財センター・味原川文化伝承館開館
- 「北前船寄港地・船主集落・諸寄港」日本遺産認定継続
- 町内全ての小中学校がコミュニティ・スクールに移行
- 美方郡で初めて新温泉町清富にコウノトリが営巣
- 「人と牛が共生する 美方地域の伝統的 但馬牛飼育システム」が世界農業遺産に認定
- アカエビをブランド化「はまさか艶美-えび-」誕生
- 公立浜坂病院創立50周年 介護老人保健施設 ささゆり開設25周年
- 文化財保存活用地域計画策定



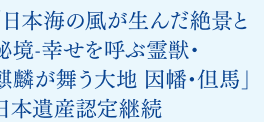
2024 令和6年

- 能登半島地震の被災地支援を行うため職員派遣
- 新温泉町立加藤文太郎記念図書館開館30周年
- 兵庫県立但馬牧場公園開園30周年
- 山陰海岸ユネスコ世界ジオパーク再認定
- 令和6年春巡業大相撲浜坂場所を浜坂中学校で開催
- 照来小学校創立150周年
- 浜坂B&G海洋センタープール廃止
- 新温泉町の偉人・篠原無然没後100年
- 「篠原無然」偉人マンガ完成



2025 令和7年

- 麒麟獅子マラソン大会 猫ひろしさん盛り上げる
- おもしろ昆虫化石館所蔵「チョウの化石」新種認定
- 地域資源循環型農業推進のまち宣言
- 「日本海の風が生んだ絶景と秘境-幸せを呼ぶ霊獣・麒麟が舞う大地 因幡・但馬」日本遺産認定継続
- 県立浜坂高校を中核とした「連携型中高一貫教育校」の推進決定
- 美方郡で初めてコウノトリのヒナ(2羽)誕生
- 子育てキャッチフレーズ・ロゴマーク決定
- 新温泉町 町制20周年



世界・日本の出来事

- 小惑星リュウグウに「はやぶさ2」着陸成功
- 新天皇即位 新元号は「令和」
- G20大阪サミット開催
- 中百舌鳥古墳群が世界遺産登録
- ラグビーW杯日本開催(日本は初のベスト8)
- 首里城火災
- 消費税10%へ改定
- パリ ノートルダム大聖堂火災

- 新型コロナウイルス感染症(COVID-19)が世界中で流行
- イギリスがEU離脱
- iPS心筋移植を実施(世界初)
- スーパーコンピューター「富岳」4種目で世界一を獲得
- 安倍首相歴代最長の連続在職日数
- 東京オリンピック・パラリンピック延期
- 「チバニアン」国際標準模式地(GSSP)として認定

- 新型コロナウイルスワクチンの接種が開始
- 節分が124年ぶりに2月2日となる
- 日経平均株価が30年ぶりに一時30,000円台を回復
- 第103回全国高等学校野球選手権大会が2年ぶりに開催
- 東京オリンピック1年遅れで開幕

- 成年年齢が18歳となる(4月～)
- 冬季北京オリンピック開催
- ロシアがウクライナに軍事侵略
- 安倍元首相銃撃事件
- 西九州新幹線(長崎～武雄温泉)開通
- 生成AI(人工知能)ブーム開始

- 新型コロナウイルス感染症が5類感染症へ移行
- トルコ・シリア大地震発生(M7.8・M7.5)
- 文化庁が京都へ移転
- WBCで第2回大会ぶりに侍ジャパンが世界一に

- 石川県能登地方で(M7.6)地震が発生
- 新潟県佐渡市の「佐渡島の金山」が国内で21件目となる世界文化遺産に登録決定
- 大谷翔平選手がメジャーリーグ史上初50本塁打50盗塁達成
- パリオリンピック開催
- ライドシェア始動

- 国内初のAI関連法案が閣議決定
- 日本国際博覧会(大阪・関西万博)開催
- 拘禁刑に一本化118年ぶり 刑罰見直し
- カナダでG7サミット開催
- 群馬県伊勢崎市で国内最高気温を更新する41.8度を観測



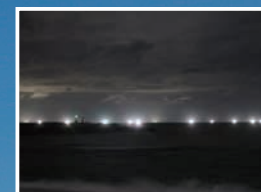
新温泉町の豊かな資源

豊かな海 悠久の大地

産業・海・ジオパーク
海と人をつなぐ5つの港の力



秋の恒例行事、「浜坂みなとカニ祭り」



闇の中に輝く日本海の
漁火は、幻想的な風景
を醸し出します。

悠久の時を刻んだ地形や 文化が息づく新温泉町



ユネスコ世界ジオパークは、国際的に価値のある地質遺産を保護し、自然と人間の共生や持続可能な開発を促す取組です。「山陰海岸ジオパーク」は、日本海形成の歴史を物語る多様な地質・地形と、それに基づく自然・文化が評価され、2010年に世界ジオパーク、2015年にユネスコ世界ジオパークに認定されました。新温泉町には但馬御火浦、久斗川溪谷、湯村温泉、霧ヶ滝など8つのジオサイト



山陰海岸ジオパーク館

があり、山陰海岸ジオパーク館では資料展示や体験学習が行われています。



鮮度の良い松葉ガニやホタルイカをはじめ 多彩な魚介類が食卓を彩ります



日本有数の水揚げを誇る松葉ガニ・ホタルイカ・甘エビの「三大海産物」に加え、年間約120種の魚介類が獲れます。ヒラメ、真鯛、アワビ、ノドグロ、キジハタなど高級魚も豊富で、四季折々の恵みあふれる“魚の宝庫”として親しまれています。



歴史港を未来へ — 海と人、文化をつなぐ

新温泉町には浜坂・諸寄・釜屋・居組・三尾の5つの漁港があります。居組港は鎌倉時代の史料にも記され、諸寄港は北前船の寄港地として栄えた歴史ある港です。明治・大正期には漁法や漁船の改良により漁業が町の主要産業として発展し、戦後には浜坂港の拡張によって松葉ガニやホタルイカなど日本有数の水揚げを誇る港町となりました。これらの港は、古くから受け継がれてきた歴史と人々の四季折々の食卓や交流を彩り、海と人と文化をつなぐ場所でもあります。

世界農業遺産・日本農業遺産は、世代を超えて継承された伝統的農林水産業と関連する文化・景観を認定する制度です。兵庫県美方地域(新温泉町・香美町)の「人と牛が共生する美方地域の伝統的但馬牛飼育システム」は、100年以上にわたり地域血統の但馬牛のみで改良を行い、牛籍簿による個体管理を継続。飼育により棚田や農村環境、草原、生物多様性が保たれる独自の持続可能な仕組みが評価され、2019年に日本農業遺産、2023年に世界農業遺産に認定されました。

四季彩る山々



但馬の誇り・但馬牛



上山高原
ブナ林

山・自然・畜産
暮らしと文化が息づく山里



棚田や高原に広がる実り 但馬牛も揃う山里の恵み

新温泉町の山々は、火山活動によって形づくられた雄大な地形が海から内陸へと続き、独特の自然美を描き出しています。山頂付近の標高946mの上山高原では四季折々の草花が咲き、放牧される但馬牛が豊かな風景を彩ります。澄んだ空気と清らかな水は畜産や農業を支え、恵みの循環を育んできました。山と海が近接する地形は多様な生態系を生み、人々の暮らしや文化にも深く根付いています。自然と共生しながら息づく新温泉町の山は、訪れる人に安らぎと力強さを与えてくれる存在です。



湯けむり漂う温泉街

温泉 人々と温泉の深い絆



常夜灯風の建物から湯煙が立ち上る。温泉街らしい演出。



美肌の湯と名高い・薬師湯



源泉かけ流しにこだわる七釜温泉
ゆ〜らく館



荒湯から家庭まで「おんせん天国」新温泉町

新温泉町は「湯村温泉」「七釜温泉」「浜坂温泉」と、町内3か所で異なる泉質の湯が豊かに湧き出す“おんせん天国”です。源泉は高温で湯量も豊富で、共同浴場から旅館まで幅広く利用され、訪れる人々を魅了します。湯村温泉では98℃の熱湯が湧き出す源泉「荒湯」が温泉街の象徴となり、湯けむりと温泉卵を楽しむ光景が人気です。春先には多くの町民が山菜やタケノコなどを下の湯壺に湯がきに、寒い時期にはポリタンクや湯たんぽに温泉を汲みに来るなど日常生活の中にも温泉文化が息づいています。





新温泉町の豊かな資源

日本遺産

日本遺産は地域の歴史的魅力や特色を語るストーリーを文化庁が認定する制度です。新温泉町では2018年に「荒波を越えた男たちの夢が紡いだ異空間～北前船寄港地・船主集落～」、2019年に「日本海の風が生んだ絶景と秘境－幸せを呼ぶ霊獣・麒麟が舞う大地『因幡・但馬』」が認定されました。前者は諸寄の北前船寄港地や船主屋敷、神社祭礼が構成文化財となり、後者は麒麟獅子舞や但馬御火浦、伝統的漁村集落などが含まれ、日本海沿岸の自然と文化を象徴しています。

Culture / Kirinshi / Kitamaebune

技と心を受け継ぐ

文化・麒麟獅子舞・北前船

日本遺産にも刻まれたストーリー



麒麟獅子舞は、通常2人1組で演じられます。1人が獅子頭を、もう1人が胴幕を担当します。



勇壮に、華やかに 地域の魂が響く麒麟獅子舞

新温泉町に伝わる麒麟獅子舞は、古くから地域の人々の暮らしとともに歩んできた伝統芸能です。霊獣・麒麟の顔を持つ獅子舞で、鳥取が発祥として、新温泉町や香美町にも広がったとされます。軽快な舞や囃子の特徴とし、因幡地方とは違った伝承が見られます。

麒麟獅子の舞は、華やかな装束と勇壮な動きが特徴で、見る者の心を一瞬にして引き込みます。その舞には、五穀豊穡や悪疫退散、地域の繁栄を願う祈りの意味が込められています。地元の若者たちは世代を超えて技を受け継ぎ、年ごとの祭りでは勇ましくも優雅な舞を披露し、町に活気と笑顔をもたらします。

北前船が運んだ、文化の航跡

江戸時代から明治にかけ、諸寄港は北前船の寄港地として栄えました。船は米や海産物だけでなく、人や文化、技術も運び、町に新たな息吹をもたらしました。諸寄地区からは歌人・前田純孝や日本画家・谷角日沙春など、多くの文化人が輩出され、町の文化活動は豊かに花開きました。北前船は、人と文化を結ぶ“文化の航路”でした。今日も諸寄にはその歴史の足跡が残り、未来へつながる町の宝となっています。



諸寄駅のほど近くにある「諸谷山龍満寺」も日本遺産の構成文化財となっています。



為世永神社 船絵馬



北前船寄港地まつりの様子

Interview かわなつ はるお 川夏 晴夫さん



新温泉町は、日本海と山陰道という2つの文化の流れに育まれてきました。その中でも「北前船」は町の発展に大きな役割を果たしました。北前船は砥石や鉄を運び、針産業の発展につながる地域産業を支えただけでなく、各地から人や文化を呼び込みました。北前船は物資の取引にとどまらず、絵馬の奉納や屋号に残る地名など、暮らしや信仰の中に残っています。浜坂では海産物の食文化が、湯村では温泉が旅人を癒す場となり、地域ごとに特色ある発展を遂げました。北前船が運んだものは物や産業だけでなく、人と文化の交流そのものであり、新温泉町の誇る歴史として今も息づいています。

この町を支える
地域団体のご紹介

Community
Strength

新温泉町の地域の力

新温泉防災リーダーの会

守りたいのは 命とふるさと
つなげたいのは 防災の心



新温泉防災リーダーの会は、「ひょうご防災リーダー講座」を修了し、会に賛同する者で構成され、平成31年に発足しました。現在会員数は25名で、地域の人口減少や高齢化の中で人命を守り、被害を軽減するよう防災・減災に向けての啓発活動を行っています。新温泉町や社会福祉協議会等と協力しながら、地域や各団体組織の自主防災訓練などに参加し、個別避難計画策定や救命救急訓練、防災講話などの支援をしています。今年、阪神淡路大震災から30年を迎えたのをきっかけに、「1.17希望の灯り」を町内の各小中学校に届け、子どもたちに“いのちの尊さ”や“災害に備える意識の大切さ”を伝えました。



主な活動・詳細

- ・ 災害に備えた講習会、訓練への協力
- ・ 個別避難計画の作成支援
- ・ 福祉施設での防災訓練実施
- ・ 地域住民への防災情報伝達

〒669-6801
兵庫県美方郡新温泉町井土
978-1
TEL.0796-92-2428

Message

自分の命、家族の命、そして地域の命を守るために。

災害はいつどこでどんなことが起こるかわかりません。災害が発生した時に、自分や家族の命を守る、周りの人や支援が必要な人の命を守ることが一番大切です。普段から地域ぐるみで災害に備えた準備や訓練をし、万が一の災害に備えましょう。私たちは、地域や組織団体にできる限り協力していきます。

新温泉町コミュニティ・スクール連絡協議会

「地域とともにある学校づくり」のパートナーとして
子どもたちの未来とふるさと愛を育む



漁協とカニ汁配り

新温泉町では、令和5年度から全ての小中学校と高等学校が学校運営協議会を設置しています。「地域とともにある学校」を合言葉に各校でコミュニティ・スクールとして様々な事業を展開しています。自然豊かで四季折々の色が素晴らしい町の自然や畜産、漁業、温泉、人々の暮らし、多くの伝統文化を教材化し、学校教育へつなぐ役割を果たすとともに、町で学ぶことで、子どもたちの「学欲」を高め、ふるさと愛を育てています。地域の強みを生かせる場も多く、委員の「自分たちも学校づくりの一員」という意識は年々高まっています。本町は小規模校が多いですが、少人数だからこそできる良さを生かし、各学校が地域の特性を生かして「子どもをどまん中」に据え、連絡協議会で内容の共有を図りながら取り組んでいます。



福祉交流会



味原川学習

Message

地域と学校が手を取り合い、学び合う喜びを未来へつなぐ。

自ら学びたいと願い、学びを深めていくことが大切な教育活動。地域の方々との学びには多くの気づきや感動が生まれ、探究心も育まれます。この町、この学校だからこそ学べる内容は子どもの心に響き、喜びとなります。さらに、自分の想いや知りたいことを家族や地域に聞くなど、人とのつながりにも広がります。新温泉町の「コミュニティ・スクール」は今後も学校の力強いパートナーとして、子どもたちへの願いを共有し、主体的な学び合いを続けます。“子どもが笑えば大人も笑う”“子どもを笑わず子どもも笑う”。子どもの元気と瞳の輝きは地域に活力を与えます。大人たちの子どもを褒めるまなざしは子どもたちを育てます。『教育は未来を創る』。学校教育への参画とつながりの輪を広げる取組が、より良い町の未来を創り出してくれると確信しています。

主な活動・詳細

- ・ 情報共有と意見交換
- ・ 学校と地域の連携推進
- ・ 学びの充実と探究活動の支援
- ・ 人材活用とボランティア支援
- ・ 研修・交流の場の提供

〒669-6702
兵庫県美方郡新温泉町浜坂
2673番地1
(新温泉町教育委員会 こども教育課内)
TEL.0796-82-5627



地域の誇りと憧れを 背に舞う諸寄麒麟獅子舞

ほんだ かい さいはら かえで
本田 海さん 才原 楓さん

鳥取県東部地域から新温泉町、香美町にかけて伝承された「麒麟獅子舞」。町内でも9つの地区に伝わります。「諸寄麒麟獅子舞」の舞手である本田さんと才原さんは、7月14日・15日と行われる例祭のために練習を重ねていました。幼い頃は怖かったけれど、年齢が上がるにつれ段ボールで獅子頭を作って遊ぶほど強い憧れを抱くようになり、小学校4年生から今まで変わらず続けています。

例祭に向けた練習は、6月末から本番直前まで每晚2～3時間。後輩への指導も担う立場になってきました。手の返しや角度、足運びといった細部にこだわり、2頭で息を合わせる美しさを追求します。でも「こだわりだしたら沼です」と話す姿はとても楽しげ。

14日の夜、例祭で最も盛り上がりを見せる漁港での舞。御旅所（おたびしょ）の前で2人は1頭の麒麟獅子として舞いました。赤い面をつけた猩々（しょうじょう）と、2頭の麒麟獅子が舞い、たくさんの太鼓や笛などのお囃子が身体に響きます。その姿には多くの観客が目を奪われます。舞が終わると、同じく舞手で幼馴染の西阪さんと3人で自然と集まり肩を抱き合う姿に、見ている側にも込み上げるものがありました。

人口減少が進むなかでも、若い2人には「この舞を絶やしたくない」という強い思いがあります。かつて憧れを抱いた子どもたちが、今は地域の誇りを背負い、次世代に夢を託す存在として、諸寄の舞台に立ち続けています。

新温泉町
Interview

文化と
生きる人



舞の奉納の直後。ともに24歳で幼馴染みの西阪 海成さんと肩を組んでの1枚。



誰もが「やりたい」を 口にできる空気をつくりたい

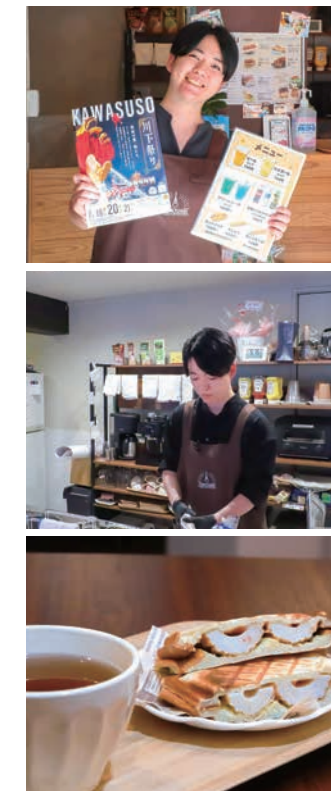
こふね みほ
移住者 小舟 美穂さん

兵庫県三木市で育ち、東京でIT企業に勤めたのち独立した小舟美穂さん。新温泉町に母方の祖父母が住んでいて、幼少期におばあちゃんが言った「いつか美穂ちゃんがこの家継いでくれたら」との言葉が胸に残っていました。その縁もあって、2020年に実施された町のワーケーションプロジェクトに参加し、地域事業者のSNS活用支援やPR活動を展開。その経験のなかでワーケーションを推進するなら「平日に安心して使えるコワーキングスペースが必要」と考え、最後の報告会で開設を宣言。

2022年に居組に古民家を改装したカフェ＆コワーキングスペース「WorkCafe Kofuneya」を開業。さらに2024年には浜坂駅前に、高校生との協働で「バス待ちカフェ TOMOSHIBI」をオープンしました。高校生が感じていた「駅前に居場所がない」という課題を受け、ちくわを使ったホットサンドなど地元食材を活かしたメニューを一緒に考案。世代を超えて人が集う空間を実現しました。現在は地域住民や移住者、学生、観光客など幅広い人が利用し、商店街にも新しい活力をもたらしています。クラウドファンディングや地域の協力も受けながら挑戦を積み重ねてきた小舟さん。活動の軸には「やりたいことを口にできる空気をつくり、誰もが一步踏み出せる地域にしたい」という思いがあります。小さなアクションから地域を元気にし、未来へとつなぐ実践者として、挑戦は今も続いています。

新温泉町
Interview

まちと
生きる人





但馬牛の目に一目ぼれ 若手畜産農家の10年

むらた みずき
村田 瑞樹さん

大阪出身の村田瑞樹さんは、2016年に地域おこし協力隊として新温泉町へ移住し、現在は但馬牛の繁殖農家として活躍しています。幼い頃から動物好きで、畜産を題材にした漫画をきっかけに「命をいただく」という営みに関心を抱き、農業大学校で畜産を専攻しました。在学中の研修で訪れた但馬牧場公園では、但馬牛の目が可愛くひとめぼれ。園長からの誘いもあり、大学卒業後に協力隊員として新温泉町での生活を始めました。協力隊時代は牛の世話に加え、イベントでレザークラフト体験の提供などに携わっていました。

3年間の任期終了後は町の支援を受け、研修用の牛舎で親牛2頭・子牛3頭から経営をスタート。独立後は年に2頭ほどのペースで牛を増やし、昨年には新しい牛舎に移って規模を拡大しました。就農3年目には兵庫県の品評会で上位入賞も果たし、質の高い牛づくりに励んでいます。特に子牛の生後2か月間を大切に、ミルク管理に細心の注意を払うことを心掛けています。自分が体調を崩すと牛も同じように体調を崩すという経験から「牛と一緒に生きている」ことを実感しているそうです。

地域に根ざして10年。堆肥と野菜を交換したり、日々声を掛け合ったりと、地域の人々と温かい関係を築いてきました。今後は「量より質」を掲げ、より良い但馬牛を育てることを目標としています。高齢化が進む畜産の現場において、若手農家として但馬牛の未来を担う村田さんの姿勢は、新温泉町の力強い希望となっています。

新温泉町
Interview

畜産と
生きる人



浜坂漁港の大型船 「第一幸榮丸」の航海士

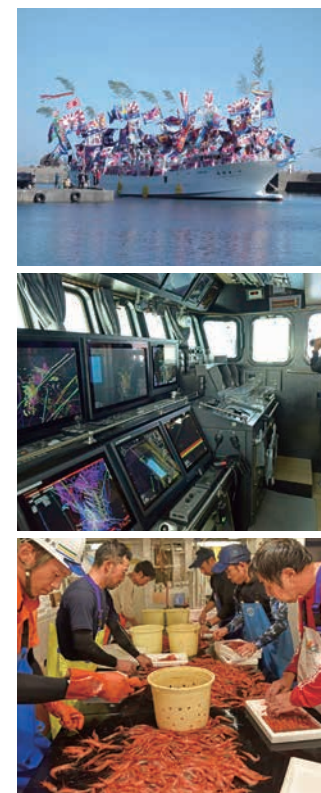
かわごえ ひろのり
川越 啓順さん

川越さんが乗るのは港でも一目置かれる大型船「第一幸榮丸」。浜坂で漁師として10年目を迎える川越啓順さんは、三代続く漁師の家に生まれ、20歳で船に乗り込みました。気づけば10年。今では船長と船員の間に立つ中堅として、仲間をまとめる立場にあります。

漁期には1週間から長い時で2週間、陸に戻らないこともあります。「きついけれど、2年前に結婚して家族が増えたのでモチベーションは高いです」と笑顔に。川越さんが乗る「第一幸榮丸」は2020年に新造され、漁業関係者から送られた色鮮やかな大漁旗を掲げてお披露目を行いました。浜坂の海産物は他の港と比べても鮮度が1番いいと思うと川越さんは言います。漁師みんながきっちりしようという空気感があるから、買ってくれた人からも鮮度がいいと言われるそうです。30歳の区切りとなる今年、これからの自分の役割について考えることも増え、年齢とともに「第一幸榮丸」を支える立場から、受け継いでいくというプレッシャーも大きいそうです。海の厳しさを知るからこそ、次世代が長く続けられる漁業へと変えていきたい。そんな想いを胸に、川越さんは今日も海に出ています。

新温泉町
Interview

海と
生きる人





この町で見つけた夢を かなえるために

やまさき ゆうた いのうえ そな
山崎 悠太さん 井上 蒼菜さん

県立浜坂高校は仲間や先生との距離が近いアットホームな雰囲気。海に近い環境も日常の一部で、夏の放課後に友人とサンビーチで海を眺めたり、友人と海に飛び込みに行ったりするのが楽しみと2人は言います。

山崎悠太さんは、小学校3年生から続けてきた野球を通じて、「人間として成長させてもらった」そうです。その恩返しとして、アスリートのパフォーマンスを高めるトレーナーを目指し、専門学校進学を決めました。自身もジムで体を鍛えながら、知識と技術を磨いています。将来はスポーツに打ち込む子どもたちを支える場所をつくりたいという構想も語ってくれました。

井上蒼菜さんは高校でも積極的に生徒会やボランティアに参加し、地域とのつながりを大切にしてきました。特に麒麟獅子マラソン大会の運営や小学生との食育ボランティアで、地域の人々のあたたかさや地元の魅力に触れ、「もっとこの地域をよくしたい」という思いを強くしました。まだはっきりとした夢はないが、将来は経営を学び、地元に戻って若者が過ごしやすい町づくりに貢献したいと話してくれました。その思いは、井上さんのお父さんの、地域に根ざした仕事を通じてたくさんの人と関わる姿から影響を受けたそうです。

2人に共通するのは、この町で過ごした自身の経験から、新温泉町の豊かな自然や人の優しさなどの魅力をもっと広く伝え、いずれ恩返しをしたいという思いでした。

新温泉町
Interview

まちと
生きる人



新温泉町
Interview

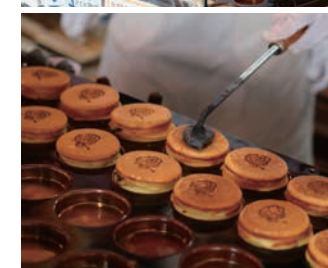
まちと
生きる人

世の中を笑って元気に開店！ おばあかふえ

たぶち さだこ おおぎり きょうこ
田淵 定子さん 大桐 恭子さん

湯村温泉の中心にある「おばあかふえ」は、地元のおばあちが日替わりで切り盛りする名物スポットです。2009年に地元の保存食文化を伝える場所としてオープンしました。壁には「おばあ条件」や「おばあ語録」としてたくさんの言葉が掲示され、無理せず「そのままでもいいんだよ」という温かいメッセージが伝わってきます。ここで働く10名は、もともと同じ会社で長年一緒に働いてきた仲間たち。「定年後に家に籠もるより人と出会いたくて。」「最初は迷ったけど、来てみたら楽しくて。」と笑顔で話します。

家庭によって受け継がれた味付けがあり、提供される料理は同じ食材を使っても作る人によって少しずつ味が変わるのも、このお店ならではの郷土料理の「じゃぶ」も鶏肉が一般的ですが、家庭によっては牛肉を使うこともあり、そんな違いをきっかけに会話も弾みます。「孫に作り方を教えてるんよ。この味は残したいね。」と話すおばあ表情はとても誇らしげです。おばあたちは口をそろえて「お客さんとお話するのが一番楽しいよ。」と言います。若い人からは新しい知識をいただき、ご年配の方とは昔話に花を咲かせることも。そんな会話のひとつひとつが、おばあたちの元気の源になっています。「いつまで続けられるかわかんけど、できることは続けたいね。」と話します。いくつになっても社会で誰かに必要とされ、自分の「個性」を活かせる環境が、元気の秘訣なのかもしれません。おばあたちの笑顔とやさしい声に包まれる「おばあかふえ」は、今日も変わらず開店します。



概況・町章

新温泉町は、兵庫県の北西部に位置し、北は日本海、東と南は香美町、西は鳥取県に接する地域で、内陸部は1,000メートル級の山々に囲まれています。

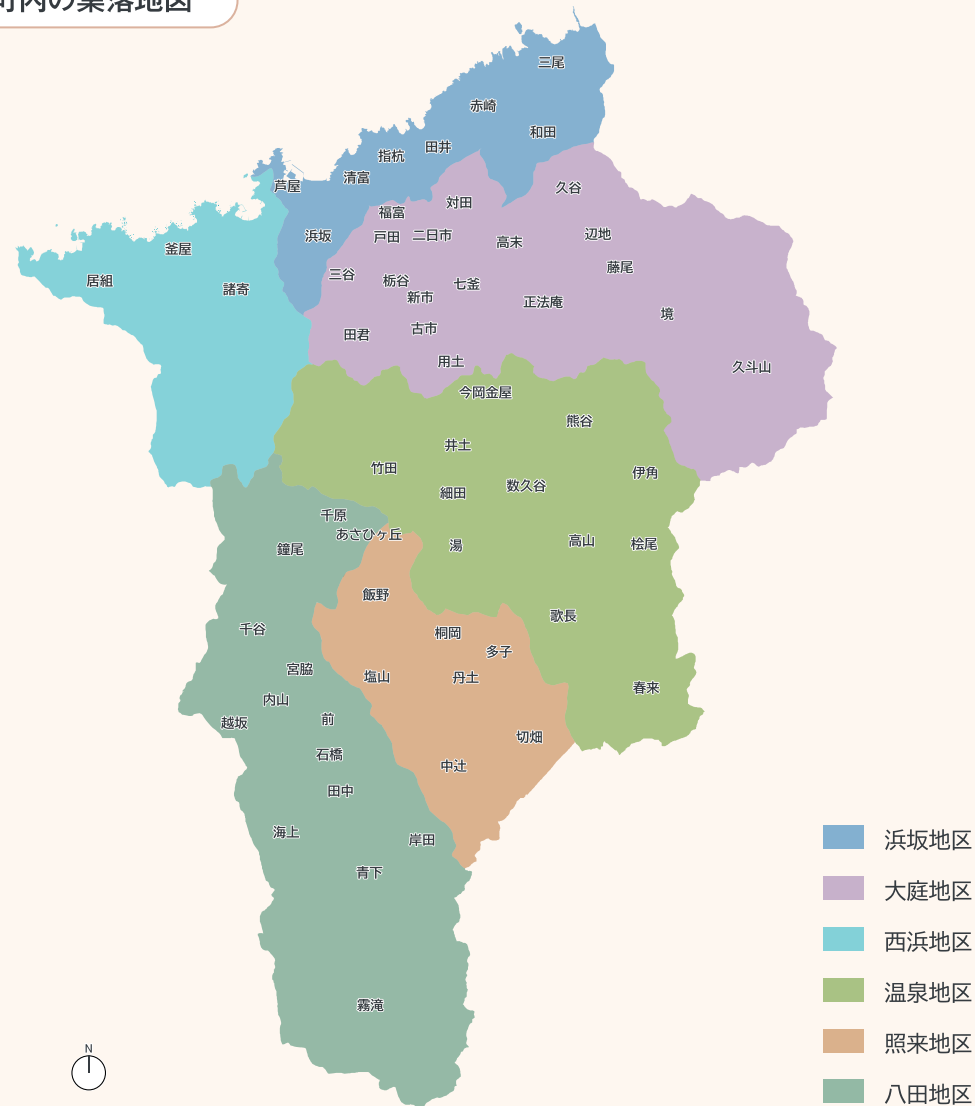
また、平成22年10月に世界ジオパーク加盟が認定された山陰海岸ジオパークの中央に位置し、山陰海岸国立公園、氷ノ山後山那岐山国定公園、但馬山岳県立自然公園などの自然公園指定区域を有しており、その面積は町全体の46.3%を占めています。

それに加え、今から約1200年前に慈覚大師により開湯されたと伝えられている湯村温泉をはじめ、浜坂温泉、七釜温泉、二日市温泉の浜坂温泉郷を有しており、『海・山・温泉』を包含する豊かな自然環境に恵まれています。

面積

町域面積は、東西19.6km、南北26.2kmの241.01㎢で兵庫県の2.9%、但馬地域の11.3%を占めています。

新温泉町内の集落地図



人口

総人口は、令和2年度の国勢調査で、13,318人、年齢構成は、14歳までの年少人口は10.53%、15歳から64歳までの生産年齢人口が48.41%、65歳以上の老年人口が41.06%となっています。従来から若年層を中心として人口減少が続いており、少子高齢化が進行しています。一方、世帯数は、4,929世帯で、核家族化の進行等により人口に比べ減少幅は小さいものとなっています。

就業人口

総就業人口は、令和2年度の国勢調査で、6,537人、産業別構成は、1次産業12.0%、2次産業23.1%、3次産業62.3%の比率であり、就業総人口は、1次、2次、3次産業がともに減少しています。比率は、1次、2次産業が減少、3次産業が増加しています。

町章



新温泉町の頭文字「し」をモチーフに、温泉と山と海をデザインし、住民が輝きながら未来に向けて飛躍する姿を表現したもので、ふれあい、創造、活力、飛躍を象徴しています。全国から応募のあった作品数1,020点の中から決定しました。

新温泉町町民憲章

私たちのまちは、日本海の形成を物語る壮大な山陰海岸、緑の山河、日本有数の温泉など豊かな自然に恵まれ、自然と共生しながら文化を育んできました。

私たちは、先人たちのたゆまぬ努力に学び、恩愛の精神で絆を深め、夢と温もりのあるまちづくりをめざし、この憲章を定めます。

- 一、多くの人と交流し、一人ひとりが大切にされるまちをつくります。
- 一、支えあいの輪を広げ、笑顔とやすらぎのあるまちをつくります。
- 一、豊かな資源と産業をいかし、人が輝く元気なまちをつくります。
- 一、ふるさとを愛し、地域の宝を守り育てるまちをつくります。
- 一、みんなで参加・行動し、夢がふくらむまちをつくります。

町の花



サクラ

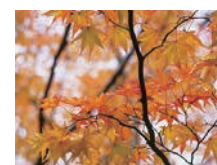


ササユリ

町の木



クロマツ



モミジ

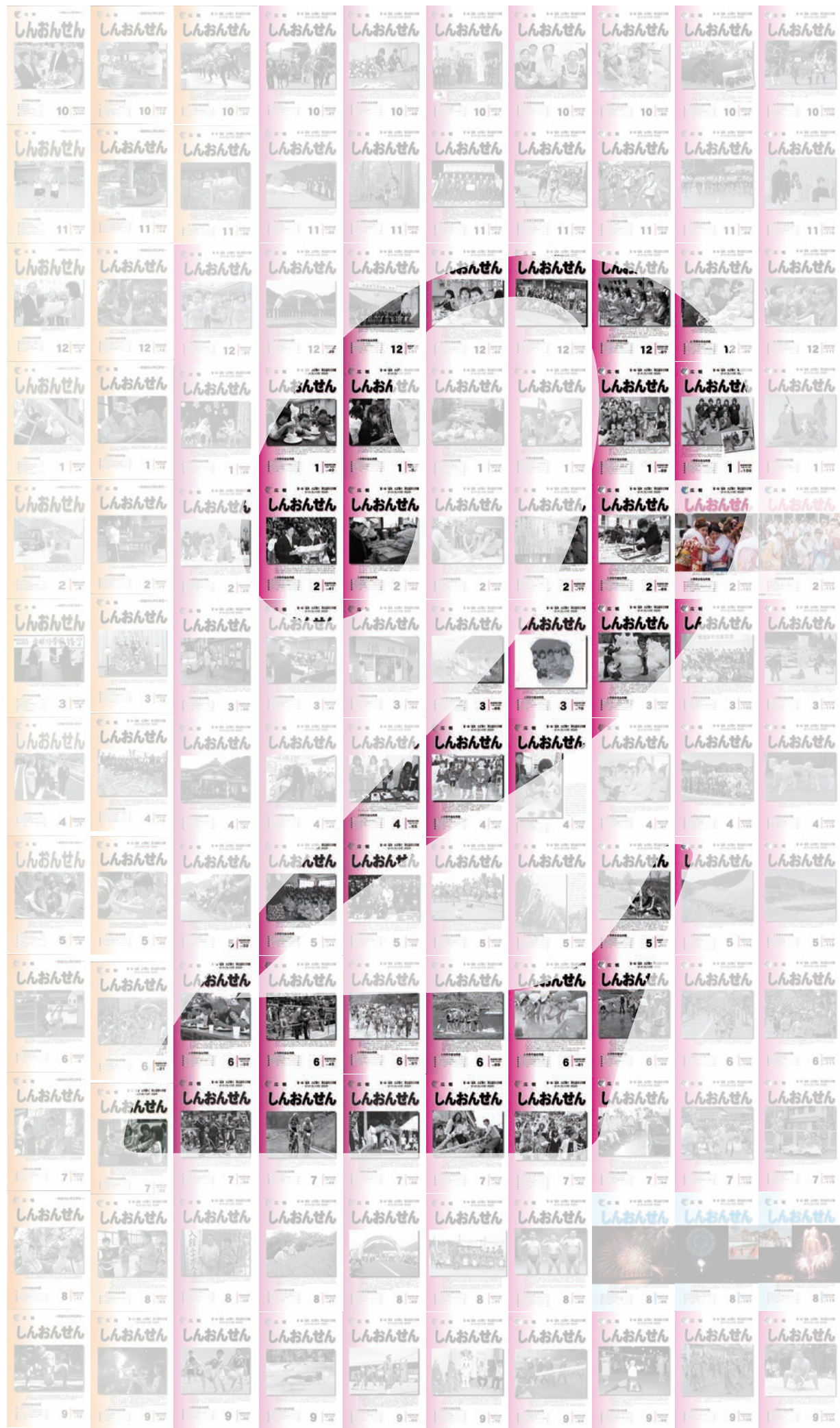
町の鳥



イワツバメ



ウグイス





兵庫県

新温泉町

SHIN-ONSEN CHO

新温泉町制20周年記念誌

〒669-6792 兵庫県美方郡新温泉町浜坂2673-1
TEL.0796-82-3111(代) FAX.0796-82-3054
<https://www.town.shinonsen.hyogo.jp/>
E-mail: info@town.shinonsen.lg.jp

発行 / 令和7年10月 新温泉町

編集 / 企画課

